第2回 知識共有コミュニティワークショップ報告

A Report of joint-workshop on "Knowledge-share" community

折田 明子 (おりた あきこ・Akiko ORITA)

中央大学大学院戦略経営研究科(ビジネススクール)助教

1. 経緯と目的

本ワークショップは、国立情報学研究所にて公開されている「Yahoo!知恵袋」のデータを活用している研究を発掘し、新たな協働を促進することを目的として、2008年にヤフー株式会社および情報社会学会との共催にて開催を開始した。ヤフー株式会社が提供する「Yahoo!知恵袋」およびその研究用データに関しては、既に社会心理学、言語学、人工知能等多岐にわたる研究成果が発表されていた。こうした多分野における研究者同士の交流をはかることも、本ワークショップの大きな目的である。

今回のワークショップは、2008 年 11 月に開催した第 1 回に引き続き、第 2 回目の開催となる。第 2 回目は、二つの点において第 1 回と異なる形態を取った。一つには、主催を情報社会学会のみにしたことである。第 1 回はヤフー株式会社との共催であったが、今回からは情報社会学会の主催とし、定例開催を見込んだワークショップとして位置づけた。なお、プログラム委員は引き続き、元ヤフー株式会社にて Yahoo!知恵袋のサービス提供に関わった方をはじめ、情報社会学会に所属する者だけでなく当該研究に造詣の深い専門家に依頼している。二つには、「Yahoo!知恵袋」のデータを活用した研究に加え、比較研究や社会心理学的分析など、知識共有コミュニティという概念全般に関わるユニークな研究を対象としたことである。

今回の第2回ワークショップは、2009年12月13日(日)13時より、JICA地球ひろば講堂にて開催した。

2. 論文

2.1 論文募集

研究論文を以下の二種類のテーマにおいて募集した。が、これにとどまることなく広く研究/事例/デモ等の成果を募集すると追記した。募集期間は2009年9月末までとした。

区分(A):知識共有コミュニティに関する研究 例:知識共有コミュニティ利用に対する社会心理学的分析 知識共有コミュニティ設計に関する技術的考察 インターネット上の知識共有サービスの比較研究 等

区分(B):Yahoo!知恵袋のデータを分析対象とした研究例: Yahoo!知恵袋データを素材にした日本語コーパス分析Yahoo!知恵袋データを素材にしたテキストマイニング手法等

2.2 論文審査および賞

研究論文として、区分(A)に5本、区分(B)に3本、合計8本の投稿がよせられた。プログラム委員によるブラインド査読の結果、区分(A)において3本、区分(B)において3本、合計6本の論文を採録とした。査読プロセスにおいて優秀論文1本を選定した。

3. インターネット中継

本ワークショップの模様は、文字による中継・参加および動画配信による中継を行った。

文字による中継には、Twitter を用いた。ハッシュタグ(投稿に対してタグをつけ、抽出および集積を容易にするもの。 #のあとに任意の文字をつける)として #ksws (Knowledge-Sharing Workshop)を設定した。これにより、参加者がその場から投稿するだけでなく、関心を持った会場外の閲覧者からのコメントを集積し、ワークショップの議論を会場の内外に持つことができた。集積された#ksws タグ付きの投稿一覧の一部を示す(図 1)。

	oritako	知義共有コミュニティワークショップのハッシュタグ #ksws http://www.infosocio.org/cfp_workshop_a2009.html	2009-12-12 17:19:01
9	passatori	RT @oritako: 知識共有コミュニティワークショップのハッシュタグ #ksws http://www.infosocio.org/cfp_workshop_a2009.html	2009-12-12 17:20:32
è	gab_ken	明日tsudaり&Usitします! RT @oritako: 知識共有コミュニティワークショップのハッシュタグ #ksws http://www.infosocio.org/cfp_workshop_a2009.html	2009-12-12 17:22:07
0	mrs_rerere	RT @oritako 知識共有コミュニティフ ークショップの ハッシュタグ #ksws http://www.infosocio.org/cfp_workshop_a2009.html	2009-12-12 18:13:22
	nari_ponpon	RT @mrs_rerere: RT @oritako 知識共有コミュニティワークショッブのハッシュタグ #ksws http://bit.ly/6dlEWo	2009-12-12 18:37:41
1	ymtknt	明日はこれに参加です。RT @oritako 知識共有コミュニティフーケショップのハッシュタグ #ksws http://www.infosocio.org/cfp_workshop_a2009.html	2009-12-12 19:58:31
	gab_ken	本日13時~知識共有コミュニティワークショップ http://bit.ly/793ATq Ust&tsudaります。Yahoo!知恵袋等のQ&Aサイトなどの研究発表です! 要注目 #ksws	2009-12-13 08:59:40
ý	natsumee	RT @gab_ken 本日13時~ 知識共有コミュニティワークショップ http://bit.ly/793ATq Ust&tsudaります。Yahoot知恵袋等のQ&Aサイトなどの研究発表です! 要注 目 #ksws	2009-12-13 09:00:59
	livegroove	RT @oritako: 知識共有コミュニティワークショップのハッシュタグ #ksws http://bit.ly/6dIEWo	2009-12-13 09:14:28
j	gab_ken	Hey #ksws (gabuken live 賽⊐ http://ustre.am/9mPd)	2009-12-13 09:28:43
	hakka_ame	Knowledge Shareってことかな?知識共有WS行きます!UST。RT @gab_ken Hey #ksws (gabuken live http://ustre.am/9mPd)	2009-12-13 09:42:48
1	oritako	本日の知識共有WSの中継 RT @gab_ken: Hey #ksws (gabuken live http://ustre.am/9mPd)	2009-12-13 10:07:48
	arg	そろそろ出かけるお。#ksws	2009-12-13 10:37:43

図 1 ハッシュタグ#ksws に投稿された Twitter の一部

動画による中継には、ustream(http://www.ustream.tv/)を利用した。なお、本中継は慶應義塾大学環境情報学部4年の林健太氏の提案および貢献によるものであり、持参したノートパソコンをイーモバイル回線にてインターネット接続した上で実施された。動画中継には537件のアクセスがあった。中継を閲覧する画面は図2の通りである。



図 2 Ustream 中継画面

4. プログラム構成

当日のプログラムは、(1) 招待講演 (2) 研究発表 および(3)ディスカッションによって構成した。

4.1 招待講演

「女の本音をどう役立てる? -10 周年を迎えた『大手小町』」 株式会社読売新聞東京本社 大手小町編集長 稲沢 裕子 様

読売新聞社のウェブサイト YOMIURI ONLINE 内に設置された『大手小町』の稲沢編集長をお迎えした。大手小町内に設置された大型掲示板『発言小町』について、「編集部がすべて公開前に目を通す」ことによって、ハンドルとメールアドレスを記入するのみでありながら、場の信頼性を確保しているという試みが紹介された。また、アクセスする利用者の職業などの属性を調べたアンケート結果や、掲示板に表出する喜怒哀楽について言及された上で、「なぜ発言小町に人が集まるのか」「発言小町を役に立つサイトにするために、何が必要か」という問いを以て締めくくられた。

4.2 研究発表

- (1) 研究発表セッション 1 座長:岡本真(アカデミック・リソース・ガイド)
 - 1) 日本におけるうつと自殺のしろうと理論: Yahoo!知恵袋における質問データの分析

勝谷紀子・岡 隆・坂本真士・朝川明男・山本真菜

2)「こんにゃくゼリー騒動」に見るネット上の扇動文の成立過程

中川譲

3)コミュニティサイトにおけるコミュニケーションを複数のアカウントを利用して操作しようとするユーザの 検出

石川尚季·西村 涼·渡辺靖彦·村田真樹·岡田至弘

最初の発表では、質問のデータから読み取れる「質問者が何を求めているか」についての分析が報告された。二つ目の発表では、マスメディアから提供される情報とネット上に出現する情報について、時系列の整理を元に相互にどのような影響が及ぼされているかの示唆が示された。

三つ目の発表では、コミュニティ内での健全なコミュニケーションを確保するために、「なりすまし」や「自作自演」を判別する仕組みが紹介された。

- (2) 研究発表セッション 2 座長:山本健一(ネイバーバージャパン)
 - 1) エージェントシミュレーションを用いた知識共有コミュニティ発展のモデル化
 - 小川祐樹·山本仁志·岡田勇·諏訪博彦·太田敏澄
 - 2)質問回答サイトにおける QARank を用いたユーザ貢献度の推定
 - 佐藤弘樹・島田諭・伏見卓恭・斉藤和巳・佐藤哲司
 - 3)質問応答コンテンツに対するWeb からの別解情報検索

高田夏希·山本祐輔·小山聡·田中克己

最初の発表では、知識共有コミュニティの参加者の動機を「援助性」「報酬性」によってモデル化した上で、 どのような制度がコミュニティの活性化を促すかをシミュレーションによって示唆した。

二つ目の発表では、QARankという尺度を設定し、最初の回答とベストアンサーに着目することで、質問カテゴリごとにユーザの貢献度を測定する試みが紹介された。

三つ目の発表では、特徴語の抽出によって、Q&A サイト以外のサイトにおいて、別解を検索する手法が紹介された。

4.3 インタラクティブセッション

Interactive Session モデレータ: 折田明子(中央大学)

本セッションは、昨年に引き続き、参加者全員が発言の機会をもつ"talking circle"と呼ばれる方法を元に構成した。モデレータがこれまでのセッションをとりまとめてコメントをした上で、その後は希望者が挙手をして話者となり、短い発言の後に次の話者にパスしていくという方式でディスカッションを進めた。議論の冒頭には、基調講演において提示された問いを受けて「役に立つ情報とは何か」という問いを提示した。そのほか、参加者によって表1のようなトピックが議論された。

表 1 Interactive Session 議論

役に立つかどうかは受け手が判断する/情報を提供する範囲と絞る範囲のコントロール /自殺相談を削除するか掲載するか/コミュニティで求められているのは、絶対的な解 が存在しない「悩み」相談/個人知と共有知

5. おわりに

第2回目となる本ワークショップでは、動画および文字による中継など、新しい試みを取り入れつつ活発な議論を行うことができた。プログラム委員各位のご協力に感謝するとともに、当日動画の中継において多大な協力をいただいた慶應義塾大学環境情報学部林健太氏に感謝したい。